



# マイカーデコング ワイルドガーデニング

## お手伝い大好き!

鴻巣 水沼裕子さん 30歳



手のかからない宿根草をさりげなく植え込んで、どの部屋からも季節ごとに何かしら花が見える。そんなガーデニングをしています。

少しずつ何種類もあるので、時にはやぶのようになります。ミカンの木の下は菊。椿の下に水仙、チューリップ、フリージア。沈丁花のそばに花ニラ、アジサイが咲き、夏のカンカン照りには真っ赤なチェリーセージが咲くというように美しく見せるといふより、季節のわかる楽しみ方をしています。ですから肥料や散水の大変な鉢物は苦手です。パンジーやニチニチソウなどの手がからず、花期の長いものを植えています。

ものぐさガーデニングとでもいいでしょうか。今夏は毛虫に悩まされましたが、秋になってメジロが止まり花や実とともにまた一つ野鳥を見る楽しみができました。

東本町3丁目 坂田佳子さん

先月、2歳の誕生日を迎えた樹里は外遊びが大好き。ほうきでお庭を掃いたり、ジョーロでお花に水をあげたり、私の制止も聞かずに咲いている花を摘んでしまったり...。とにかく楽しくて仕方がないようです。お手伝いしてくれているのでしょう。その姿はほほ笑ましく、愛しくもあります。

「子育ては自分の成長にもつながるのよ。」と言ってくれた方がいました。娘の成長を通し、私自身も成長していけたらうれしいですね。そして樹里には、思いやりのある優しい人に育ってほしいと思っています。



お庭でポーズ 樹里ちゃん (2歳)

### KOGA 万華鏡

## 新たな年を祝福する芸能

### ～三河万歳と古河～

「その才蔵はなんとという名で、どこかの奴だ」と、半七は訊いた。「下総の古河の奴で、松若というんだそうです」

岡本綺堂の『半七捕物帖』の「三河万歳」という話の一節です。三河万歳とは、各地に伝わっていた万歳

のひとつで、太夫と才蔵の二人組で家々を訪れ、新たな年を祝福する芸能です。ここでいう太夫と才蔵は人の名前ではなく、いわばボケとツッコミのような役割分担です。江戸はもろろのこと、古河周辺でも、三河



三河万歳

もので、江戸時代の歳時記や地誌をひもといてみると、「才蔵市」なる言葉によってその答えがみちびきだせるのです。江戸時代、正月の万歳のために三河国(愛知県)からやってきた太夫たちは、ともに万歳をする才蔵を、江戸日本橋の四日市というところで雇うのだといひます。これを才蔵市といひ、江戸近郊から才蔵になるために集まってきました。その主な出身地として、下総古河があげられているのです。

当時の名古屋弁と茨城弁のかけあいは、いま以上にそうとうスリリングなものであったことでしょう。振り返って現代。正月のテレビ番組には、きまって寄席からの中継がありまます。そこで繰り広げられる落語や漫才などを見てみると、現代ではもはや、新たな年を祝福する芸はテレビを通してやってくるのだと実感せざるを得ません。

古河歴史博物館学芸員 立石尚之